■ 個人研究者　□ 研究者・学生等による共同プロジェクト　□ プロジェクト研究所

【代表的な研究テーマ】

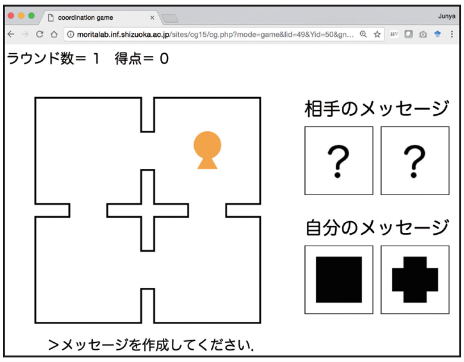
□ 自閉傾向を持つ方のコミュニケーションの方法を理解する研究
□ 個人写真を使った記憶の回想支援

キーワード：コミュニケーション、自閉傾向、記憶回想支援、人とコンピュータの相互作用

情報学部

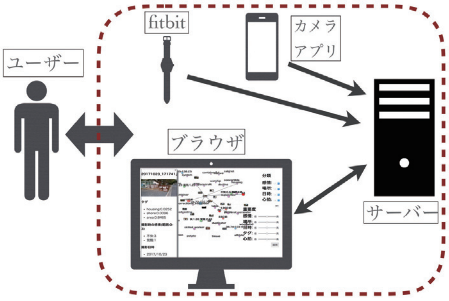
研究の概要

1．**自閉傾向を持つ方のコミュニケーション方法を理解する研究**
自閉傾向の方は、一般にコミュニケーションが不得手といわれています。ですが、私たちが開発しているコミュニケーションゲームのなかで、彼らは巧みに他者と意思疎通をおこないます。このような知見をもとに、自閉傾向をもつ方を理解しつつ、コミュニケーションの支援に関する研究を進めています。



コミュニケーションゲーム

2．**個人写真を使った記憶の回想支援**
個人が撮りためた写真を情報技術によって統合・処理することで、感情をともなう記憶を呼び起こす研究をおこなっています。精神的に落ち込んでいる方に対して、活動へのモチベーションを向上させることを狙っています。



記憶の回想支援システム

社会連携へ向けたアピールポイント

- **研究している分野**
基本的には大学の実験室のなかで、多様な特性をもつ**人間のコミュニケーションや考え方の特徴**を調べつつ、人々の幸せに貢献するツールの開発を目指しています。現場での活動経験が豊富というわけではないですが、支援学校や介護場面を想定し、研究成果の現場への実装を目指しています。

- **研究アプローチ**
認知モデリングという**「人間の模型をコンピュータで作るアプローチ」**を用いています。個人の思考やコミュニケーションの傾向をコンピュータによって表現し、その表現をもちいた支援を行います。情報技術を活用した人間に対する深い理解が、未来社会の様々な問題の解決につながっていくと考えています。

森田　純哉
学術院情報学領域
行動情報学系列
教授

■ その他の社会連携活動

・2014年から2020年度、名古屋大学未来社会想像機構にて、ケアハウスでの記憶階層実験、一般高齢者を対象とした長期の心身機能トレーニング実験など、現場における実証実験を実施。
・2023年11月よりJST RISTEXにて、デジタル社会における情報の信頼確保に向けたプロジェクト「ローカルエコーチェンバーをステアリングするトラスト調和メカニズムの認知的検討」を主導

■ 相談に応じられる関連分野

情報技術をもちいた人間の心理や認知の支援（自閉傾向、記憶回想、認知機能の低下、人とコンピュータの相互作用）

3 すべての人に健康と福祉を
4 質の高い教育をみんなに
8 働きがいも経済成長も